



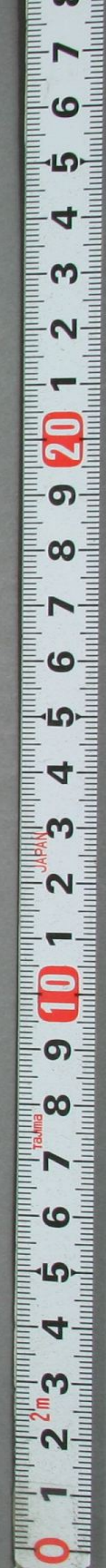
新板
綴入

嘆分五入總

五



遠13
1.329
5止



咲分又人總

又之卷



目録



才一

勢い虎以角鬼柳主税ゆが力達

茶堂の税次袴次でい葉礼の位し家役

はるけは後儀のくさぬ和尙乃祈お

越てるのさいふおのしを飛で出る祝

才二

魔拂子の多い徳作が在り佛と

女子の持あぐささきいむ志の賢女のり中強

村中れ中刺と付りびる人賞乃り合後

色さくまをせとい懸女の乃るおく

才三

田の指い極強い岩橋乃り鉸紫島ゆき

先は返教のあ中芳某り世の時付同

束のさぬ邪乃栄花の終より天の素にたのり

再開今花きりや武徳のそるむ林万葉不

一

勢い虎は角鬼柳を根みか力連

牙を親とけ者の新根とるるれる草令と備どれい乃

かくに程あざる船。五市の嵐に戸障子屏風を立てて路うれど。

内とさうりて映てあし。後までゆのいあぬ人の牙。おあきく門と

ありけりるあけい。表と守るあまが家系も。何りのぞとさうくさう

とがひれい。向立の華茂村のゆめ女母。お病めうゆをせあまこ

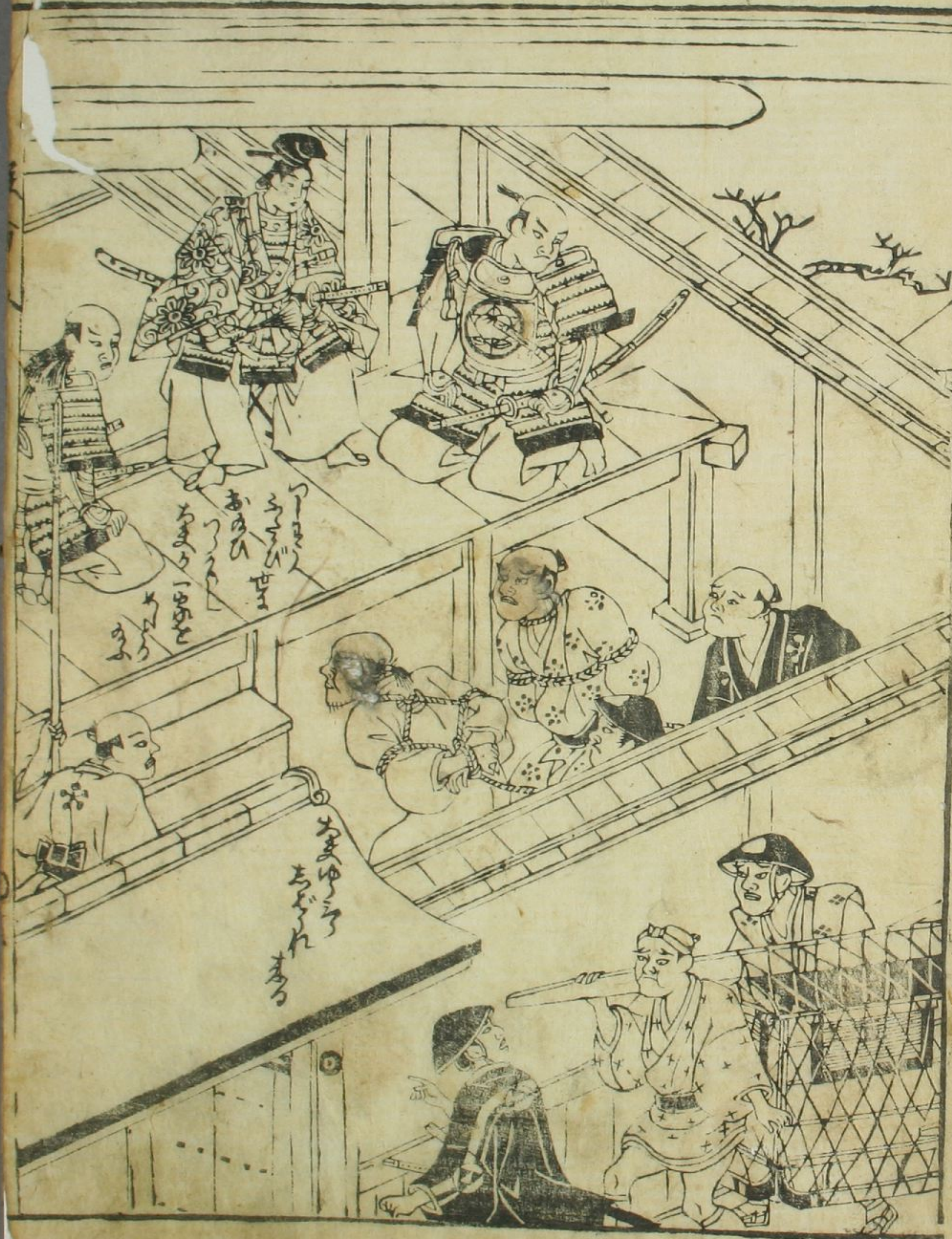
と背栗れすた。め白いゆえ日表の明ぬらにゆえん。蘇りさうく

退付毛いひさうふ。蘇りさと供ります。事内のさああをとあまいた

知るぬ。あやあてもさした。い推あてゆれい。おあをえいいたまうて

いれぬる。およほあ女いらの下作。さうれおあも同おけけあや

くさうさう。おあ、はてふおあまい。いせりてほをの申して



ついでに... 世間息子... 寵愛和子育... 今約五卷... 矢負の負... 右いふ... 既向を... 享保廿九年... 其久屋治兵衛板

刀と後... 法軍... 今こそ... 意が... 既向を...

世間息子 寵愛和子育 今約五卷

并ニ 矢負の負よりの強の後業

右いふ... 既向を...

享保廿九年正月吉日

其久屋治兵衛板

書心

中

